

2025.11.22
in 防災科研

第1回

防災支援人材育成プログラム策定会議 －全体カリキュラムの検討－

議題

- **自己紹介（次ページ、名簿）・・・15分**

- ✓全員、名前と地域での防災活動等

- **防災支援人材育成プログラム（仮）について・・・10分**

- ✓背景、課題、目的、用語、地域防災ファシリテーション形（かた）等

- **防災支援人材育成プログラムのカリキュラム検討・・・60分**

- ✓別紙、事務局作成資料

- **事務連絡・・・10分**

- ✓「人を対象とする研究に関する審査」（倫理審査）

- ✓今後のスケジュール

- ✓ほか

名簿

(50音順、敬称略)

No	氏名	地域	所属・活動	備考
1	天野 一男	県南央 牛久市		
2	井手 義弘	県北 日立市		
3	笠島 昇治	県西 下妻市		
4	草間 清那	県西 古河市		
5	桑野 あゆみ	県南央 美浦村		
6	笹島 俊秋	県央 ひたちなか市		
7	柴田 美智子	県北 常陸太田市		
8	田中 香織	県南 つくば市	自主防災組織アドバイザー	・11/22欠席
9	長屋 和宏	県南 つくば市		
10	野上 大介	県央 水戸市	障害支援施設、水戸市防災士会副会長	・11/22欠席
11	松崎 貴志	県南 つくば市		
12	森 剛勇	県西 下妻市		
13	吉田 淳	県南央 石岡市		
14	山本 美和	県南 つくば市		少し遅れて参加

●事務局

No	氏名	所属	所属・活動	備考
1	李 泰榮	防災科研	災害過程研究部門	
2	今泉 賢吾	防災科研	災害過程研究部門	
3	上田 啓瑚	防災科研	防災情報研究部門	
4	若泉 政人	若泉事務所	—	

災害対策基本法と地域防災

- 伊勢湾台風（1959年）を契機に、**国土や国民の生命、そして身体や財産を災害から保護し、社会の秩序と公共の福祉の確保**に資するために、災害対策基本法を制定
- **国、基礎自治体、指定公共機関の責務**として、災害予防（組織体制の強化、防災計画の作成と推進等）、災害応急対策（情報伝達、応急対応、被災者保護等）、災害復旧等を規定
- **住民等の責務**として、災害への備え、自発的な防災活動、災害対応への協力等を規定。
- **自主防災組織**については、災害対策基本法 第2条2（基本理念）、第5条2（市町村の責務）、第7条2（住民等の責務）に規定

災害対策基本法上の規定

第2条2（基本理念）

国、地方公共団体及びその他の公共機関の適切な役割分担及び相互の連携協力を確保するとともに、これと併せて、**住民一人一人が自ら行う防災活動及び自主防災組織**（住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織をいう。以下同じ。）**その他の地域における多様な主体が自発的に行う防災活動を促進**すること。

第5条2（市町村の責務）

市町村長は、前項の責務を遂行するため、消防機関、水防団その他の組織の整備並びに当該市町村の区域内の公共的団体その他の防災に関する組織及び**自主防災組織の充実を図るほか、住民の自発的な防災活動の促進**を図り、市町村の有する全ての機能を十分発揮するように努めなければならない。

第7条3（住民等の責務）

地方公共団体の住民は、基本理念にのっとり、食品、飲料水その他の生活必需物資の備蓄その他の**自ら災害に備えるための手段を講ずるとともに、防災訓練その他の自発的な防災活動への参加**、過去の災害から得られた教訓の伝承その他の取組により防災に寄与するように努めなければならない。

- ほか、消防組織法、大規模地震対策特別措置法、国民保護法にも規定あり

災害時の対応と日頃の備えの例（地震災害）



テーマ	災害時の対応	平時の備え・訓練
身の安全	身を守る、出口の確保	家具固定、玄関整理、 <u>江ノ川アウト訓練</u>
安否確認	家族・近隣の安否確認	方法の検討、手段の確保、 <u>安否確認訓練</u>
消火活動	出火元の確認、消火活動	人材の確保、機材の点検、 <u>消火訓練</u>
被害確認	被害状況の把握、報告	方法の検討、手段の確保、 <u>情報伝達訓練</u>
救出・救護	負傷者等の救出、救護	人材の確保、機材の点検、 <u>AED訓練</u>
避難行動	住民等の避難・誘導	避難所・路の確認、避難方法の検討、 <u>避難訓練</u>
福祉避難	要配慮者の避難支援	要配慮者・支援方法・福祉避難所の検討、 <u>避難訓練</u>
避難生活	避難所の運営、生活の維持	避難所運営組織化、 <u>避難所運営訓練</u>
給食・給水	給食・給水の実施	資源の確保・点検、 <u>炊出し・給水訓練</u>
物資配分	必要な物資の把握・調達	資源の確保・点検、 <u>物資仕分け・配膳訓練</u>
二次被害防止	二次災害の軽減活動	危険箇所の点検・改修、 <u>防災まちあるき</u>
防犯・巡回	防火・防犯の見廻り	自警団や警察等との連絡体制づくり
受援調整	ボランティア組織等と調整	支援組織やボランティア組織と連携

災害時の対応と日頃の備えの例（豪雨災害）



テーマ	災害時の対応	平時の備え・訓練
情報収集	気象情報の収集・伝達	気象情報・避難情報の理解、 情報伝達訓練
水防活動	浸水の未然防止活動	危険・安全個所の確認、土のう点検、水防団と連携
安否確認	家族・近隣の安否確認	方法の検討、手段の確保、 安否確認訓練
福祉避難	要支援者の避難支援	要支援者・支援者・支援方法の検討、 避難訓練
避難行動	住民等の避難・誘導	避難所・路の確認、避難方法の検討、 避難訓練
被害確認	被害状況の把握、報告	方法の検討、手段の確保、 情報伝達訓練
避難生活	避難所の運営、生活の維持	避難所運営組織化、 避難所運営訓練
給食・給水	給食・給水の実施	資源の確保・点検、 炊出し・給水訓練
物資配分	必要な物資の把握・調達	資源の確保・点検、 物資仕分け・配膳訓練
二次被害防止	二次災害の軽減活動	危険箇所の点検・改修、 防災まちあるき
防犯・巡回	防火・防犯の見回り	自警団や警察等との連絡体制づくり
受援調整	ボランティア組織等と調整	支援組織やボランティア組織と連携

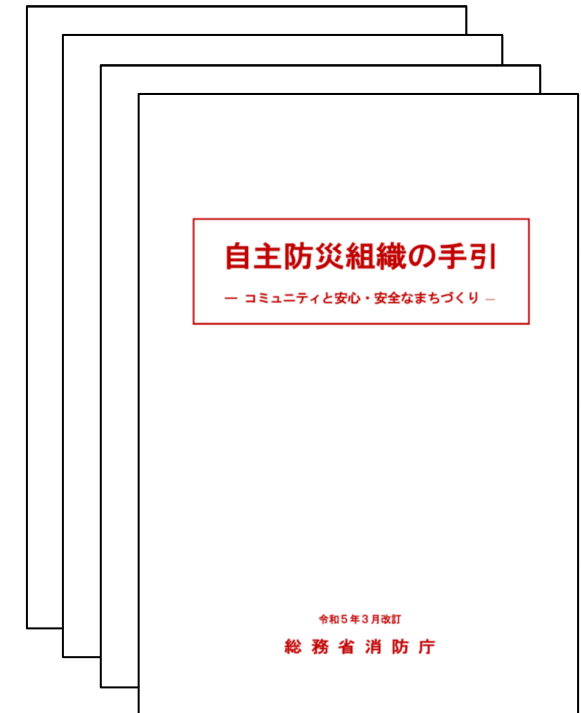
自主防災組織制度の創設

課題

- 大規模災害時（1995年1月、阪神・淡路大震災）の絶対的な支援人材の不足
 - 防災行政による初動対応の限界
 - 平時の公的な人的資源の備えに対するコスト軽減（納税の負担）
- ➔行政の消防力・防災力の強化と並行して、住民による自主防災組織の育成が防災行政（※災害対策基本法）の重要項目

自主防災組織

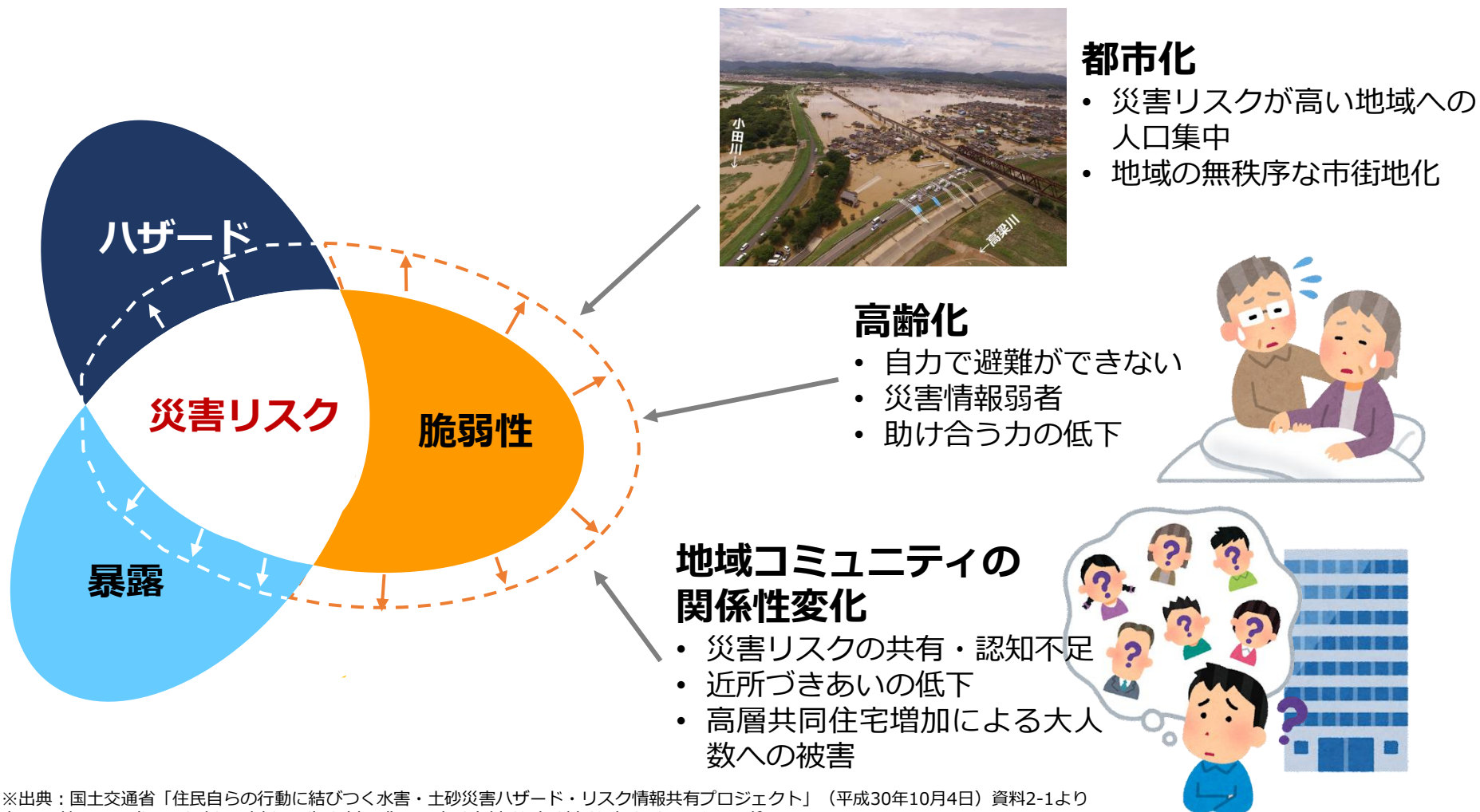
- 地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成（公権力※なし）
- 活動の原則
 - ①大規模災害時等に自分達の地域の火災、救助に対応
 - ②簡単な消火、救助活動に従事
 - ③訓練・装備は、初期対応中心
 - ④地域のリーダーのもと活動



※消防団（消防組織法）、水防団（水防法）は、公共機関として非常勤の特別職地方公務員。

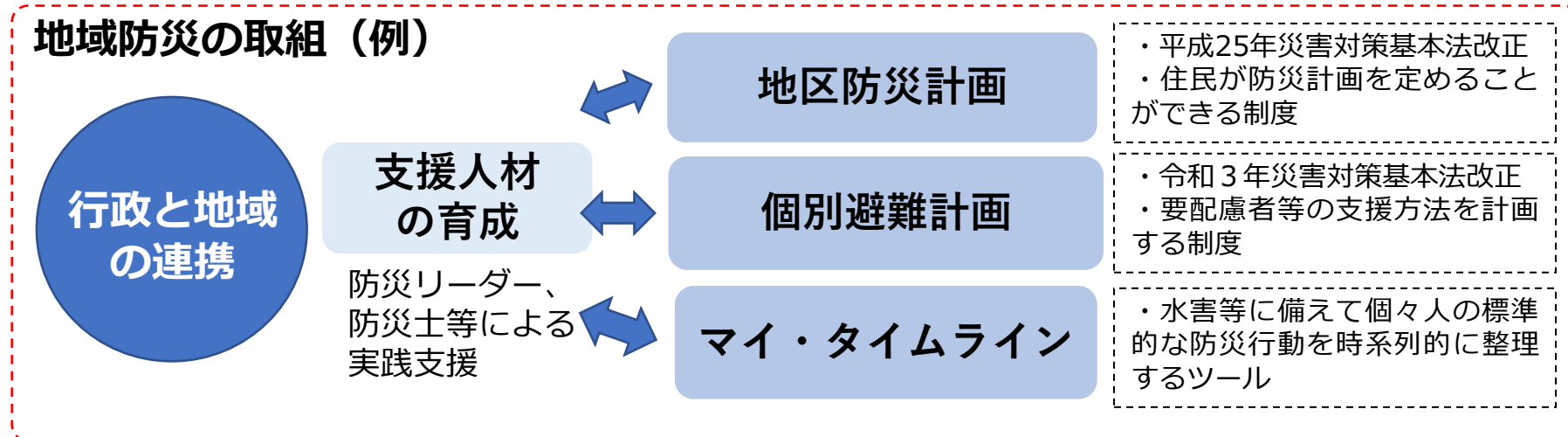
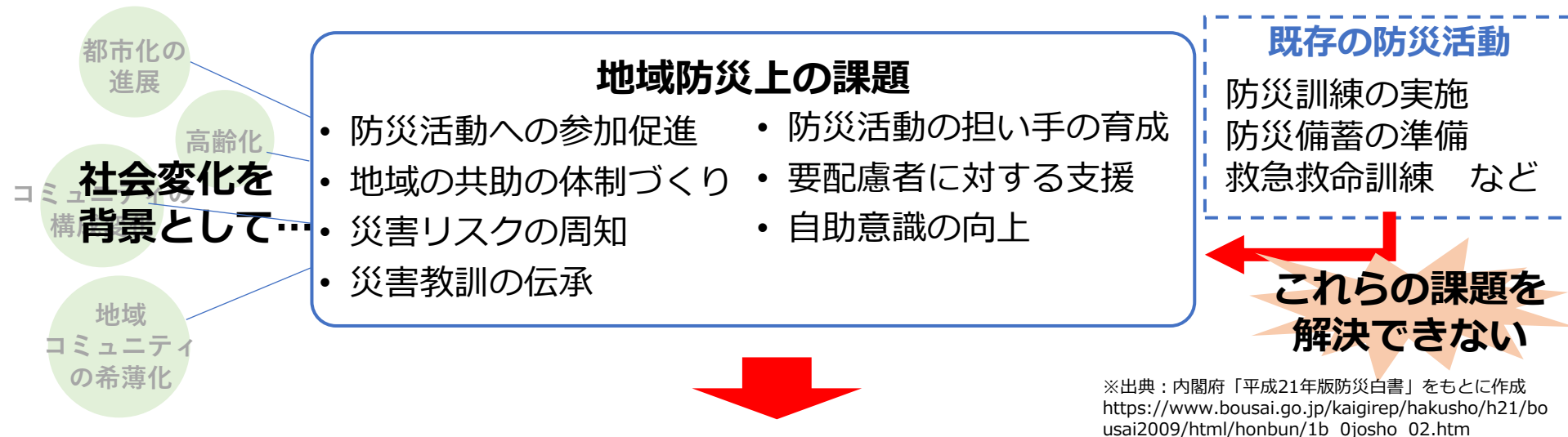
災害リスクの上昇・増加

✓都市化や高齢化、これらに伴う地域コミュニティの関係性の変化などの社会の変化によって、地域社会が災害からの影響を受けやすくなり（脆弱性が高まり）、その結果、地域の災害リスク上昇・増加



災害リスクの低減

- 社会の変化を背景とした地域防災上の課題の解決を通じて地域の災害リスクを低減するために、従来の防災訓練に加え、行政と地域が連携した様々な取組が推進。



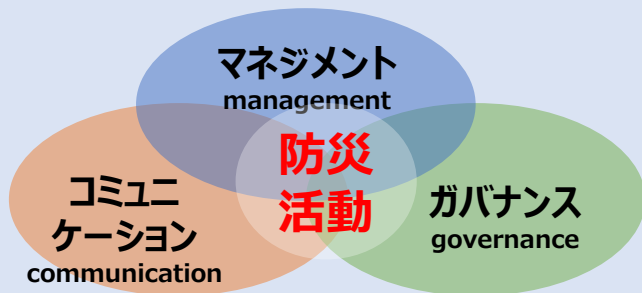
防災活動の課題

- ✓活動主体（自治会や自主防災組織など）が持つ知識・経験に依存。
- ✓地域実態に即していない、マニュアル等に沿った画一的・集団的な防災訓練（消火訓練、安否確認訓練、避難訓練など）が主流。
- ✓活動のマンネリ化、活動主体の高齢化、参加率の低下などが深刻。



近年の気候変動に伴う災害リスクの増大化・複雑化、加えて、地域社会の多様化と弱体化に対し、災害時の柔軟な対応を可能にするためには「効果的な防災活動」が重要。

効果的な防災活動の操作的定義



- 地域の災害リスクを理解・評価したうえで、災害時に地域で起こりうる課題と必要な対策を検討する。➡災害リスクマネジメント
- 災害時の課題と対応について、様々な地域コミュニティの視点から地域の実態を踏まえて話し合う。➡災害リスクコミュニケーション
- 様々な地域コミュニティが参加した防災活動を通じて、災害時の課題解決に向けた協力関係を構築する。➡災害リスクガバナンス

➡「効果的な防災活動」の実践のためには、地域防災に関する専門的な知識や能力を持つ専門家による支援が不可欠・重要。

地域防災の専門家・支援者 = 防災士に注目

- 地震や台風などの災害に備え、地域での防災活動や災害対応の知識を持つ人材を育成することが目的
- 防災リーダーとしての役割を担い、災害時に地域住民を支援することに期待

- 特定非営利活動法人日本防災士機構が設けた資格制度（2003年、国家資格ではない）
 - ① 日本防災士機構が認証した機関（自治体、大学等）が実施する「防災士養成研修講座」を受講し、「研修履修証明」を取得する。
 - ② 日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験（受験料＝3,000円）し合格する。（研修履修が必須、研修最終日に試験）
 - ③ 公的機関等が主催する「救急救命講習」（心肺蘇生法やAEDを含む）を受け、その修了証を取得する。（研修中に実施）

➡①②③を以って、日本防災士機構に「防災士認証登録申請」を申請（申請料＝5,000円）し、「防災士認証状」「防災士証（カード）」を交付。

※防災士資格取得費用・防災士教本代・受験料・認証手数料について、自治体の助成有り。

※消防団（消防組織法）、水防団（水防法）は、公共機関として非常勤の特別職地方公務員。

➡ 全国に315,576人（2025年2月現在、日本防災士機構認証）、毎年増加傾向

防災士養成講座

- **地震や台風などの災害に備え、地域での防災活動や災害対応の知識を持つ人材を育成することが目的**
- **防災リーダーとしての役割を担い、災害時に地域住民を支援することに期待**

実施機関：日本防災士機構が認定した機関（自治体、大学等）

研修内容：防災士教本（2024.4.1、**400頁**）に沿った2日間の講義式の研修

防災士教本（目次）

● 1章 災害発生のおくみ

- ✓ 災害（地震、津波、気象、土砂、火山）のメカニズム、被害、対策（ハード、ソフト）、関連法律、近年の主な自然災害（阪神・淡路大震災～能登半島地震）等

● 2章 災害に関する情報

- ✓ 災害関連情報と予報・警報、被害想定・ハザードマップと活用・課題等

● 3章 公的機関や企業等の災害対策

- ✓ 平時計画、災害対応、復旧・復興までの対策、国土強靱化、災害対策基本法、災害医療、ライフライン、帰宅困難者対策、孤立集落の発生と対策、企業・団体の事業継続等

● 4章 自助

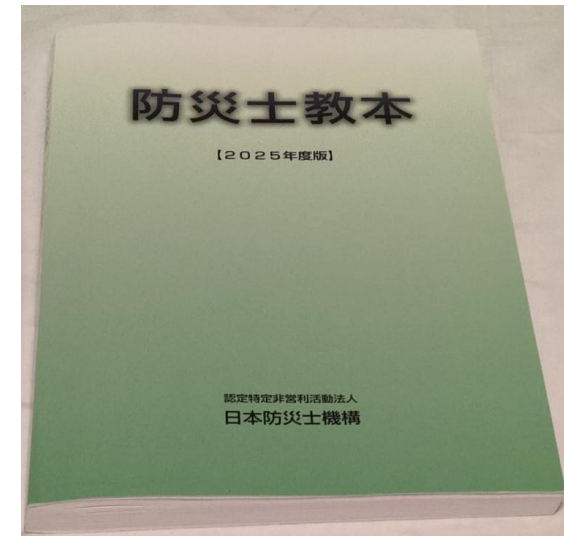
- ✓ 災害への備えと対応、防災行動、耐震、共済制度、保険等

● 5章 共助

- ✓ 自主防災活動と地区防災計画、避難所指定・運営、地域防災、災害ボランティア等

● 6章 防災士制度

- ✓ 期待される活動・役割、各種訓練・活動の手順等



防災士に期待される活動・役割（防災士教本より）

- 地震や台風などの災害に備え、地域での防災活動や災害対応の知識を持つ人材を育成することが目的
- **防災リーダーとしての役割を担い、災害時に地域住民を支援することに期待**

平常時	<p>自分の身のまわり、家庭の防災・減災対策の実施。地域や企業における防災意識の啓発活動、訓練・研修などの実施や参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会への働きかけや自主防災組織の結成・参加。 ・マンションなど、集合住宅での防災対策を講じる。 ・地域の防災講演会や講習会で活動する。 ・住民を対象とした災害図上訓練、避難所開設運営訓練を企画・実施する。 ・住民へのAED・応急手当、初期消火訓練の実施。 ・地域や自治体と協力して災害時要配慮者の支援活動を行う。 ・地区防災計画作成を推進する。 ・マイ・タイムラインの普及に努める。 ・ラジオ、テレビ、新聞など、メディアへの出演や取材に協力する。 	地域防災の推進
災害時	<p>消防や警察、自衛隊などの公的支援が到着するまで、被害の軽減を図り、消火活動や救出救助、避難誘導などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず自分の身を守る。次に周囲の人びとの安全を確認し、手助けを必要とする人を支援する。 ・初期消火、救出救助、けが人の応急手当、搬送を行う。 ・周囲の人々に呼びかけて安全な避難を心がける。率先避難者となる。 ・行政や自主防災組織と連携して避難所の開設、運営にあたる。 ・正確、適切な情報収集に努め、周囲に伝達する。 ・災害時要配慮者への支援を行う。 	災害対応の支援
災害発生後	<p>自治体、防災関係機関、NPOなどと連携・協働して被災者支援にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や近隣の人々の安否確認を行う。 ・自主防災組織や避難所運営委員会の役員とともに地域の人々の支援を行う。 ・救援物資の搬送、仕分け、配布にあたる。 ・災害ボランティアとして避難所支援やがれきの撤去など被災者のニーズに応じて活動する。 ・災害ボランティアセンターの支援を行う。 ・継続して被災地入りして復興支援を行う。 	災害対応の支援

防災士に期待される活動・役割（防災士教本より）

- 地震や台風などの災害に備え、地域での防災活動や災害対応の知識を持つ人材を育成することが目的
- **防災リーダーとしての役割を担い、災害時に地域住民を支援することに期待**

1. 地域コミュニティの防災活動を実践・支援する方法論
2. 防災活動において科学技術の活用（情報ツール等）
3. **防災知識を持って地域コミュニティに介入する方法論**

※地域介入のためには、

能力への信頼（Competence-based trust）：相手が必要な知識・技術・経験を持ち、期待通りの結果を出せる能力があると信じること。

意図への信頼（Intent-based trust）：相手が善意や公正な意図を持ち、こちらを裏切るような動機がないと信じること。

- 防災・コミュニティ活動との関連地域防災や組織においては、この両方の信頼が重要
- 能力を信頼しなければ、指示や計画の有効性に疑念。
- 意図への信頼がなければ、協力的な行動は生まれにくい。

参考 防災士等を対象にした人材育成の取り組み事例

No.	主体	取組み内容	対象／ニーズ
1	日本防災士会茨城県支部茨城県防災士会	<ul style="list-style-type: none"> 高萩市の防災士資格を持った女性職員防災士を対象としたスキルアップ研修（女性視点の避難所運営）、講演、防災教育活動、視察、訓練、HUGなど 	地域 （ニーズ）女性の視点による避難所運営
2	日本防災士会東京都支部東京都防災士会	<ul style="list-style-type: none"> 首都直下型大地震への備え：公助との架け橋 活動地区防災計画の作り方、マイタイムラインの作り方 ※<u>防災士であろうとなかろうと、誰でも参加できる組織を目指している</u> 	地域 （ニーズ）首都直下地震を想定し、自助・共助と公助4大組織との連携を深める
3	日本防災士会新潟県支部新潟県防災士会	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い防災啓発活動を通じて、「災害で命を失うことの無い地域社会」の実現 自治体、学術機関、防災関連団体と連携し、地域防災力の向上と人材の育成 災害時には、関連団体と協働で該災地支援・災害ボランティア活動 	地域、学校、被災地 （ニーズ）防災啓発、地域防災力向上と人事育成、災害時の被災地支援・ボランティア活動
4	日本防災士会石川県支部石川県防災士会	<ul style="list-style-type: none"> 災害関連死を防ぐ避難所のトイレ、キッチン、バスのテーマでスキルアップを図った 安否確認訓練、講演、県総合防災訓練参加、災害図上訓練（DIG訓練）、防災マップ作り 	地域、自主防災、学校 （ニーズ）能登半島地震の教訓の伝達、継承

参考 防災士等を対象にした人材育成の取り組み事例

No.	主体	取組み内容	対象／ニーズ
5	日本防災士会長野県支部	「きこえる人も、きこえない人も、みんなで考える防災」(7/28) などろう者と防災についても取り組む(南信ブロック)	地域 (ニーズ) ろう者の防災
6	ふじのくに防災士会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会制度とは、防災士の活動をより充実させるため、目的や地域を同じくする防災士同士が、ネットワークを作る ・「静岡県ふじのくに防災士」は静岡県が独自に養成した認定。「NPO法人日本防災士機構」が養成しております「防災士」とは別 	地域 (ニーズ) 県と共同した防災士の養成、活動支援、地域ネットワークづくり
7	日本防災士会兵庫県支部兵庫県防災士会	<ul style="list-style-type: none"> ・PC技能から地区防災計画、助成金の申請まで幅広い研修会を開催 ・企業や団体のBCP策定、各自治体の主催防災関係事業への講師出講 ・平成27年尼崎市、平成29年西宮市と協力体制協定 	地域、企業 (ニーズ) 地区防災計画策定、BCP策定、女性視点での防災活動、自治体の災害時対応、平時の防災啓発活動支援
8	福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市は地域や企業における防災リーダーの養成 ・実災害での活用実績はない 	地域 (ニーズ) 地域の防災力向上、災害時の行政との連携

参考 防災人材育成に活用されている教材、資料、ツール、プログラム等

No	タイトル	内容	分類1
1	「にぎやか荘」火災のなぞ	災カードを見せずに情報共有して「出火原因」を推理するゲーム http://www.sbk.or.jp/hikeshi/	全般
2	ぼうさい<ダ・ズ・ン> <防災グッズ編>	防災用品を災害時に役立つ順に順位づけするゲーム http://www.sbk.or.jp/hikeshi/	防災備蓄
3	ぼうさいカルテット	4つの絵札を集めキーワードなどを何度も発言することによって学ぶ http://www.sbk.or.jp/hikeshi/	身の安全 避難行動
4	スマホ避難シミュレーション	スマートフォンによる情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツ https://www.sp-hinan.jp/pc/	全般
5	震度6強体験シミュレーション	度6強の地震を疑似体験するロールプレイングゲーム https://www.bousai.go.jp/simulator/shindo6/bb_0000000.html#%E9%9C%87%E5%BA%A6%E5%BC%B7%E4%BD%93%E9%A8%93%E3%82%B7%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3	身の安全 避難行動
6	避難所イメージゲーム「ひなんじよなんナン？」	避難所の基本的な知識が楽しく学べることを目的としたカードゲーム https://midori.midimic.jp/bousai_gensai/gamedvd/gamedvd.html	避難生活
7	防災すごろくゲーム「GURAGURA TOWN」	買い物遊びをしながら学ぶ防災すごろくゲーム https://plusarts.theshop.jp/items/11299750	全般
8	防災ボードゲーム「RESQ」	遊ぶだけで防災の知識が身につくボードゲーム https://sites.google.com/view/d-pro135/%E9%98%B2%E7%81%BD%E3%82%B2%E3%83%BC%E3%83%A0/resq	全般
9	森の消防隊	森の奥で火災が発生、くまの消防士さんは大いそがし（未就学児可） https://drrgamestudio.jimdofree.com/%E9%98%B2%E7%81%BD%E3%82%B2%E3%83%BC%E3%83%A0/%E6%A3%AE%E3%81%AE%E6%B6%88%E9%98%B2%E9%9A%8A/	消火
10	メタバース・ゲームを活用した防災対策シミュレーション	デジタルとリアルの融合で、社会課題解決（2024年8月現在開発中） https://gloe.jp/news/202408_mdr/	全般
11	きいちゃんの災害避難ゲーム	楽しみながら実践的に学べる県オリジナルの防災学習ツール https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/kiichangame.html	津波避難
12	災害対応ゲーム（STG）	災害時の企業の対応をゲーム感覚で疑似体験できる図上訓練ツール https://www.sompo-rc.co.jp/services/view/219	全般

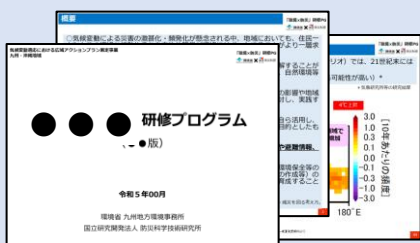
防災支援人材育成プログラムの概要

- ✓ 地域防災の現場を支援できる人材育成に向け、NPO法人茨城県防災士会と連携・協力し、防災士の知識や知恵、経験をもとにした「**防災支援人材育成プログラム**」を研究開発。
- ✓ 「**防災支援人材育成プログラム**」を用いた研修を通じて、**地域コミュニティの効果的な防災活動を支援**するための考え方をはじめ、**防災活動の実践に必要な専門知とそれを活用した防災活動のプロセス、具体的な実践方法を学習**。

※研修を受けた防災士等が地域コミュニティの防災活動を支援する際に活用可能。

● 防災支援人材育成プログラムのコンテンツ

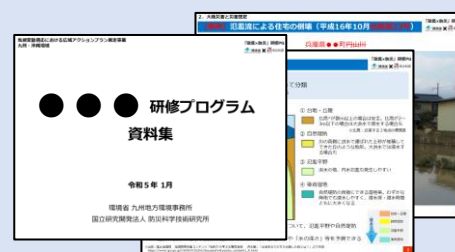
- ✓ **教材**：研修で使う説明資料・教科書のようなもの。（防災活動支援時に使用可、各回）
- ✓ **ワークシート**：研修の各種演習で使うシート。（各回）
- ✓ **資料集**：教材の説明を補足する情報を掲載したもの。（より専門的な参考資料・情報）
- ✓ **評価シートA**：育成された人材の知識と能力を評価するもの。（事前・事後）
- ✓ **評価シートB**：支援する地域の防災基礎力の変化を評価するもの。（事前・事後）
- ✓ **指導案**：プログラムを用いた研修で、指導を行うための具体的な計画書。（各回）



教材



ワークシート



資料集



評価シート (A/B)

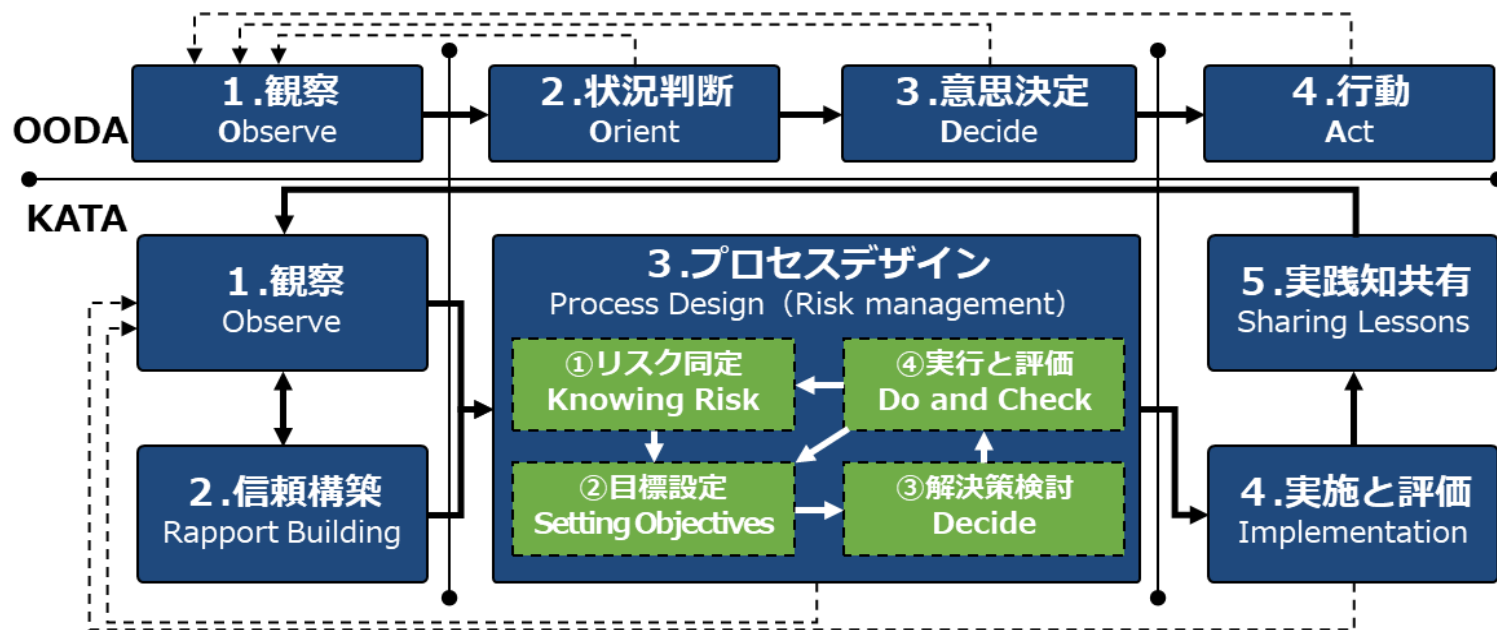
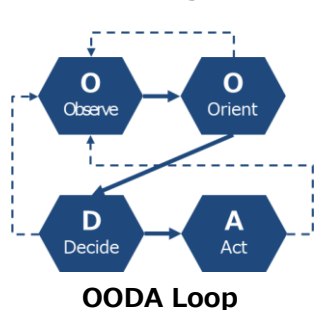


指導案

防災支援人材育成プログラムの基礎

● 地域防災ファシリテーション「形」

- ✓ 災害リスクが複雑化・増大化し、地域課題が多層化する現在、**地域コミュニティの効果的な防災活動**を支援するための一連の流れを提供。
- ✓ 地域防災の支援において、**変化する状況に応じて自由な対応**を可能にするための教育方法論。
- ✓ 地域社会が自律的に防災力を高めていくための「**思考と行動**」を体系化したもの。



地域防災ファシリテーション「形」

■ 地域防災の支援
■ 地域防災の活動

地域防災ファシリテーション「形」の具体

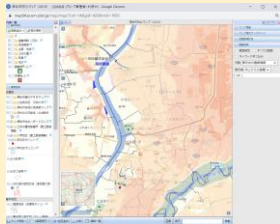
形	概略	支援活動の内容（要検討）
1. 観察 Observe	支援する地域の現状を観察する。	<ul style="list-style-type: none"> ● プロセスデザインのために事前に行った、関係者へのアンケートやヒアリング、インターネット検索、現地視察等による全般的な情報収集 ● 取り組みの中で得られた地域や住民の状況についての理解や気づき
2. 信頼構築 Rapport Building	活動主体と信頼関係を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ● ファシリテータの能力（地位、知識、経験等）に対する信頼を得る行為（行政によるファシリテータの紹介を含む） ● ファシリテータの意図（姿勢、目的等）に対する信頼を得る行為（地域の疑問や不満への対応を含む） ● 住民の取り組みへの合意を形成するための行為（説明会等）
3. プロセスデザイン Process Design	地域が主体的に防災に取り組めるための手続きと体制を事前に設計する。	<ul style="list-style-type: none"> ● プロセスデザインの検討において考慮した／影響を及ぼした要素 ● 地域における体制づくりの支援
	① リスク同定 Knowing Risk	地域のリスクを理解し共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 住民が地域の災害リスクについて理解するための講義や、ハザードマップの確認、過去の被災経験を振り返るための防災まちあるきやワークショップ等の活動
	② 目標設定 Setting Objectives	課題を同定し解決目標を定める。 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の課題を抽出・整理・特定するためのワークショップや、確認できた課題からより詳細な目標（いずれの階層も）を定めるためのワークショップ等の活動
	③ 解決策検討 Decide	必要な解決策を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の課題に対する解決策や、解決に必要な体制と具体的な計画を検討するワークショップ等の活動
④ 実行と評価 Do and Check	訓練などを通じて解決策を実行・評価・改善する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 解決策や体制を実行するための訓練や演習、その後の反省会等 	
4. 実施と評価 Implementation	ファシリテーション実践効果を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ● プロセスデザインに沿った各活動の実施後の省察とデザインの見直し ● 取り組みの手法に対して、住民など取り組みの対象者からの評価の実施（手法評価アンケートや事業報告会での意見交換等） ● 取り組みの結果として現れた地域の行動変容を把握
5. 実践知の共有 Sharing Lessons	得られた知見を共有し新たな気づきを生み出す。	<ul style="list-style-type: none"> ● 取り組みの成果や課題を公開（報告書や事例集の公表、学会・フォーラム等での発表、ニュース記事・ブログ記事の掲載等） ● 取り組みの手法を他地域で展開（他地域への派遣や視察受け入れ等による情報提供・助言等）

地域防災ファシリテーション「形」の実践事例（常総市）

- 平成27年9月関東・東北豪雨において市域の3分の1が浸水した常総市（茨城県）では、気候変動により想定されるさらなる災害への備えを進めるため、4地区の地域住民が主体となり、被災経験の振り返りを通して地区防災計画づくりの取組を実施
- 行政職員や対象地域の防災士を支援の担い手として巻き込み、支援の流れと実践を共有

1. 観察

- 対象地域の位置や災害想定等を確認



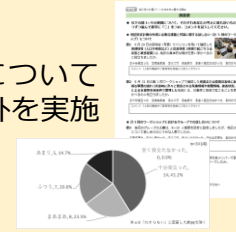
2. 信頼構築

- 事業説明会や使用ツールの研修会を開催し、参加者とのコミュニケーションを図る



4. 実施と評価

- 取組支援の手法について協力団体へのアンケートを実施し、評価結果をまとめる



5. 実践知の共有

- 実施記録を「地域防災Web」に掲載



3. プロセスデザイン

1. 観察

2. 信頼構築

①リスク同定

②目標設定

③解決策検討

④実行と評価

4. 実施と評価

5. 実践知の共有

3. プロセスデザイン

①リスク同定

- ワークショップで被災経験を振り返り、地域課題の整理を支援



3. プロセスデザイン

②目標設定

- 防災まちあるきの実施と防災マップづくりを支援
- ワークショップで災害時の対応と平時の備えの検討を支援



3. プロセスデザイン

③解決策検討

- ワークショップでアクションプラン（行動計画）と計画の運用方法の検討を支援



3. プロセスデザイン

④実行と評価

- 成果発表会で取組成果を発表し、今後の取組について意見交換
- 成果（計画内容）について住民へのアンケートを支援



地域防災ファシリテーション「形」の実践事例（斜里町）

- 斜里町（北海道）のウトロ地区では、世界自然遺産 知床の観光資源を生かし、地域住民に加え、地元観光事業者・団体や民間企業等を巻き込み、観光まちづくりイベントの機会を活用した避難訓練等により、観光客・地域住民の避難ルールや孤立対策を検討
- 有識者、NPO、研究機関、地元コンサルタント等が外部支援体制を構築・積極的に発信

1. 観察

- ・ ワークショップで関係者が顔合わせ
- ・ 地域状況を視察
- ・ 過去の災害経験や想定される災害を確認

2. 信頼構築

- ・ 勉強会（ワークショップ）で取組趣旨を共有し合意形成



4. 実施と評価

- ・ 地区防災計画を提案し町防災会議で承認
- ・ 津波避難場所の検討・設置



5. 実践知の共有

- ・ 学会等で事例発表



3. プロセスデザイン



3. プロセスデザイン ①リスク同定

- ・ 住民向けアンケートの実施・結果とりまとめを支援
- ・ ワークショップにより地域課題の抽出を支援



3. プロセスデザイン ②目標設定

- ・ ワークショップで優先課題の設定と課題検討を支援



3. プロセスデザイン ③解決策検討

- ・ ワークショップで地域ルールの検討を支援



3. プロセスデザイン ④実行と評価

- ・ ガードレールの雪かきイベント後に避難訓練を実施
- ・ 地区防災計画・マップのとりまとめ、地域に共有



防災支援人材育成プログラムのカリキュラム案

セッションNo.	地域防災ファシリテーション「形」	セッション名	パーツ			時間(分)	形式	
1	オリエンテーション	プログラムが目指すこと	1-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			1-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			1-3	①方法説明	②実習		30	演習
事前評価						5	—	
2	1. 観察 2. 信頼構築	地域を知り、信頼を築く	2-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			2-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			2-3				40	演習
			事後評価			5	—	
事前評価						5	—	
3	3. プロセスデザイン ①リスク同定	地域の災害リスクを把握する	3-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			3-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			3-3				40	演習
			事後評価			5	—	
事前評価						5	—	
4	3. プロセスデザイン ②目標設定 ③解決策検討	災害時の課題と対応策を検討する	4-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			4-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			4-3				40	演習
			事後評価			5	—	
事前評価						5	—	
5	3. プロセスデザイン ④実行と評価	災害時の対応策を実行・評価する	5-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			5-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			5-3				40	演習
			事後評価			5	—	
事前評価						5	—	
6	4. 評価 5. 実践知の共有	効果を評価し、実践知を共有する	6-1	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			6-2	①概念・用語等	②制度、事業等	③事例等	15	座学
			6-3				40	演習
			事後評価			5	—	



NIED

防災科研

生きる、を支える科学技術
SCIENCE FOR RESILIENCE

生きる、を支える科学技術
SCIENCE FOR RESILIENCE



NIED

防災科研